



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済 (12月9日～11日)

1. イランの石油・ガス・セクターにおける外国企業の活動 (10日付ハムシャフリー紙)

中国、インド、韓国、南アフリカ等の外国企業の少なくとも7社が、イランの石油・ガス・セクターで本年も活動している。中国企業ではヤーダーヴァラーン油田に51%の権益を有するシノペック、アーザーデガーン油田を開発している CNPC が活動中である。サウス・パールズ・ガス田の開発を支援している韓国の Daelim (大林) は、トムバク (Tombak) 港 (南部ブーシェフル州) での LNG プロジェクトも支援している。

2. 来年度予算案の国会提出の遅延 (11日付ドンヤーイエ・エグテサード紙)

イラン国会の予算計画委員会の報道官は、「政府は、石油収入、国家財産、資本移転等の見通しを立てることができていないため、来年度 [ヒジュラ太陽暦 (イラン暦) 1392 年 (2013 年 3 月 21 日～2014 年 3 月 20 日)] 予算案編成を未だ行っていない。よって、来年度予算案の国会への提出は遅れるであろう」と述べた。

3. 本年度予算における石油収入の減少 (11日付ジョムフーリーイエ・エスラーミー紙)

イラン国会の予算計画委員会の委員によると、本年度 [ヒジュラ太陽暦 (イラン暦) 1391 年 (2012 年 3 月 20 日～2013 年 3 月 20 日)] 予算における非石油輸出にかかる収入への依存度は 50%に上り、石油収入については、本年度当初予算額の 40%にとどまっている。石油収入の減少およびその資金移動の制限が、本年度前半の 6 カ月間 (2012 年 3 月 20 日～9 月 21 日) における国会への政府による報告書の重要課題であったことを明かした。

4. 医薬品輸入に関する外貨の配賦額 (11日付イーラーン紙)

為替センターのキャリーミー報道官は、「医薬品輸入に関して、イラン中央銀行からの外貨の配賦額は、25 日前と比較して 30%増加している。イラン中央銀行において薬剤と医療機器の輸入は最優先事項であると述べた。

5. インフレ率の上昇 (10日付ジョムフーリーイエ・エスラーミー紙)

イラン中央銀行によると、ヒジュラ太陽暦 (イラン暦) アーバーン月 (10月22日～11月20日) におけるインフレ率は、前月比 1.1～1.2%増の 25.6～25.7%であった。

## 6. 自動車の輸出（9日付ドンヤーイエ・エグテサード紙）

イラン税関発表の統計によると、本年〔ヒジュラ太陽暦（イラン暦）1391年（2012年3月20日～2013年3月20日）〕の8カ月（2012年3月20日～11月20日）において、38,792台の自動車（金額で2億3,000万米ドル）が輸出された。イラク、ウクライナ、アゼルバイジャンが主な輸出先となっている。自動車1台あたりの価格は5,931米ドルであり、昨年〔ヒジュラ太陽暦（イラン暦）1390年（2011年3月21日～2012年3月19日）〕より13.3%値上がりしている。